

教育課程（全体計画）

Ⅰ）教育目標（めざす幼児像）～自分でやりたいの土台をつくる～

- ①自育力！ ～体力・基本的な生活習慣を育む～
- ②共育心！ ～子供同士・保育者同士・子供と保育者同士…共に学びあう～

Ⅱ）教育方針（めざす幼稚園像）～土台作りを支援する～

- （１）基本的な生活習慣を大切にする幼稚園＝モンテッソーリの日常生活の練習
- （２）言葉を大切にする幼稚園＝サントレ教育（母国語を大切にする）
- （３）生きる力を身につける幼稚園＝モンテッソーリ教育による自立心のはぐくみ
- （４）環境教育につとめる幼稚園 ～SDG s～＝子供の敏感期に応じた室内外の環境整備
- （５）家庭や小学校との連携をたいせつにする幼稚園
- （６）使命観をもつ保育者の幼稚園＝教職員は保育の向上に努力する。

Ⅲ）今年度の重点目標（継続）

- 早朝・ポパイ・モンテソーリタイム＝たてわり保育の意識＝園庭遊びへの取り組み。
- 毎日のふり回りタイムやICT化により全園児の成長の把握。

Ⅳ 今年度の内容

A＝十分に達成されている。B＝達成されている。C＝取り組まれているが成果は十分ではない。D＝取り組みが不十分である。 《M＝ミーティング mo＝モンテッソーリ ●＝自己評価項目》

〔１〕教育目標・教育方針

- ＝教育目標や方針、保育の内容について、職員と保護者にその理解を深めるよう取り組んでいる。

○日照幼稚園からにっしょう認定こども園への移行は地域へ浸透してきた。（評価＝A）

○新教育要領（三つの柱、10の姿）に基づいた園の教育課程についての更なる理解浸透をはかる必要がある。（評価＝B）→（改善点）三柱、10姿の成長を意識し「狙い」と「振り返り」を！！

◆応答的教育 ◆対話的教育 であったか？

〔２〕教育課程の編成

- ＝教育課程は、社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて見直す。

○新教育要領に即し、認定こども園の全年齢を見通した教育課程を作成することができた。（評価＝A）

○PDCAサイクルのC＝評価 A＝改善のさらなる充実をはかることが課題として残る。（評価＝B）

〔３〕指導計画の作成と評価

- ＝互いに保育を見せ合って検討し、評価反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている。

○水曜 M をとおして、日々の保育の点検・気づきの公開、また3年間の保育の連続性、教育方針の徹底

などに効果をあげている。さらに保育部門のおひさま M、一時預かり部門のクレヨン M によって 0 歳児からの保育、長時間保育には成果をあげた。(評価=A)

○ 2018 年度から採用したふり返りタイム、ICT が定着した。(評価=A)

○ ICT 化 (Kids View) の活用が充実してきた。(評価=B→A)

○ 自己評価後の職員間の協議時間が十分とはいえない(評価=B)

[4・5] 教育環境の構成

●=幼児の発達に即した遊具や用具、素材などを用意している。

○水曜 M をととして、各部屋のみならず、園全体の環境構成が考えられている。(評価=A)

○施設型給付によって、保育園部門の保育室や遊具を充実することができた。(評価=A)

○ホールの改装が未定(評価=B)

○円環型の園庭の整備にあたたな大型遊具が充実した。(評価=A)

●=異年齢の幼児が自然に交流し、学びあえるような環境構成について。

○水曜 M をととして、朝 9 時～10 時までの好きな遊びを見つける時間は充実している。(評価=A)

○預かり保育(3 時以降)についてはクレヨン M やスタッフの充実がはかられた(評価=A)。

○ホールが徐々にたてわり室に変わりつつある。(評価=A)

○9 月よりベースの子が一気に増加、バイリンガル問題に課題(評価=c)

[6] 教師同士の協力連携

●=教職員全員が、すべての園児についてある程度理解しているようにさまざまな工夫をしている。

○各種のミーティングをととして教諭間では共通理解は十分なされている。(評価=A)

○ICT 化によって全園児の成長が共有できるようになった。(評価=A)

[7・8] 研修・研究への取り組み

●=研修を修了した教職員が、研修内容を発表する機会を設けるなど、成果を共有する仕組みがある。

○水曜 M が十分に機能している。(評価=A)

○職員の増加で外部への研修参加が増えてきた。(評価=A)

●=療育専門機関と連携をはかり特別支援を必要とする幼児に対する保育の研修研究を行っている。

○水曜 M が十分に機能している。(評価=A)

○外部への研修を積極的に申し込んだが、中止が多く評価ができない。(評価=)

○モンテッソーリ教師養成コース。デュプロマ取得 3 名、以降が途絶えた(評価=A→B)

[9・10・11] 安全管理体制の整備

●=緊急時(事故やけが、感染症の発生時など)の対応手順について、全教職員が共通理解をする。

○学校安全の中、①生活安全 ②交通安全には十分取り組まれている。(評価=A) ○消防署の査察で高い評価。(評価=A) ○保育園の避難訓練の12回に、<u>幼稚園も避難訓練も増加できた</u>。(評価=A) ○保育園は、内科検診は年1回であったが年2回にすることができた。(評価=A) ○個人ではなく、園で全職員の健診とインフル受診を行った。(評価=A)
●=事故の発生を未然に防ぐために、園内の危険箇所や危険な遊び方などについて教職員間で話合う。
○水曜 M が十分に機能している。(評価=A) ○園庭改修によって、危険箇所が予防されている。(評価=A)
●=施設設備は常に整備され、室内は整理整頓が行き届いている。
○水曜 M が十分に機能している。(評価=A)
[12] 保護者との協力と支援 ●=保育参観や保護者会などで、共通理解を得るように取り組んでいる。 ○ICT化(Kids View)の活用で担任と保護者との連絡が円滑になる(評価=B→A) ○日米の保護者の交流が、ハローウィンなどで一部すすんだ(評価=c→B) ○米国の子の急な退園にとまどうことが多い(評価=c)
○保育参観である程度の理解は得られている。(評価=A) ○保護者は行事へ積極的に協力をしている。(評価=A) ○インフルエンザ予防等感染症の<u>発症源への理解は課題</u>である。(評価=B) ◆今年度はコロナ感染への対応で行事が分散型となる。感染予防対策は評価できる(評価=A)
[13・14] 地域への開放と支援 ●=地域開放や子育て支援のあり方について、教職員で話合っている。
○「おひさまくらぶ」の参加者が少ないのが。→課題である。(評価=B→C)

IV 今年度も継続しさらに充実したこと

【施設設備新設&増設】

- 一階廊下…書架(絵本コーナー)
- 園庭改修…HAGS(ハグス)社の新園庭遊具を増設=アスレチックが充実。
- 寮の屋根吹き替え、壁面塗り替え
- 発表会をホールで行うために一部改修…パーテーション設置、音響設備設置

【園内研修の充実】

- 「サントレ」「モンテッソーリ」の園内研修。テキストの共有。
- 毎日ふり返りタイム・水曜 M・おひさま M・クレヨン M。

V 今後の取り組むべき課題

①保育教諭の資質の向上

※新教育要領（育ってほしい 10 の姿）と常に対比しつつ、自らの保育を振り返る力を養う。

②上記の視点から、年間行事、月案、日案を見直すと同時に、以下の保育についても振り返る。

【保育】サントレの群読・モンテッソーリ時間の充実／参観日・発表会の分散化（各学級ごと）

まことの保育（仏教保育）カリキュラムの充実／日米交流保育 【ICT化】Kids Viewの最大限の活用

【研修】園内のモンテッソーリ研修・サントレ研修・モンテッソーリ保育の助手の養成

【小学校との接続】小学校一年生の担任教諭と合同の架け橋カリキュラム会議

③施設の整備

ホール（発表会、音楽会、各種行事、全体集会、クレヨンに使用）の改修、職員室の改修

V 学校関係者の評価

（1）開催日 2023年2月15日（水）開催

（2）出席者

○学校関係者評価委員（クラス委員）

青組＝中上さやか・柴田聖恵、黄組＝大田弓恵・立川綾乃 赤組＝永本香緒里

○園長・副園長・寺岡主幹

①教師の自己評価をまとめた作成した上記の学校評価を説明する。

②各委員よりおおむね学校評価の内容について了承され、来年度以降の課題について、期待の弁を述べられる。

VI 公表 ① 2023年3月5日の保護者総会 ②職員室での閲覧 ③ 3月にHPに掲載

2022/4/26 運営状況報告書に添付